

# 宿泊施設の経営形態の違いが地域経済に及ぼす影響の実証分析

元東京理科大学 京都大学大学院 東京理科大学 東京理科大学  
 山本康太・田中皓介・寺部慎太郎・柳沼秀樹

第16回日本モビリティ・マネジメント会議  
 2021年8月20日-21日 於熊本  
 連絡先：tanaka.Kosuke.6k@kyoto-u.ac.jp

## 序論

### 背景

- ✓ インバウンド需要等による地域経済の活性化への期待
- ✓ チェーンホテルのブランドを活かした顧客の呼び込み
- ✓ 一定の品質の宿泊施設の提供



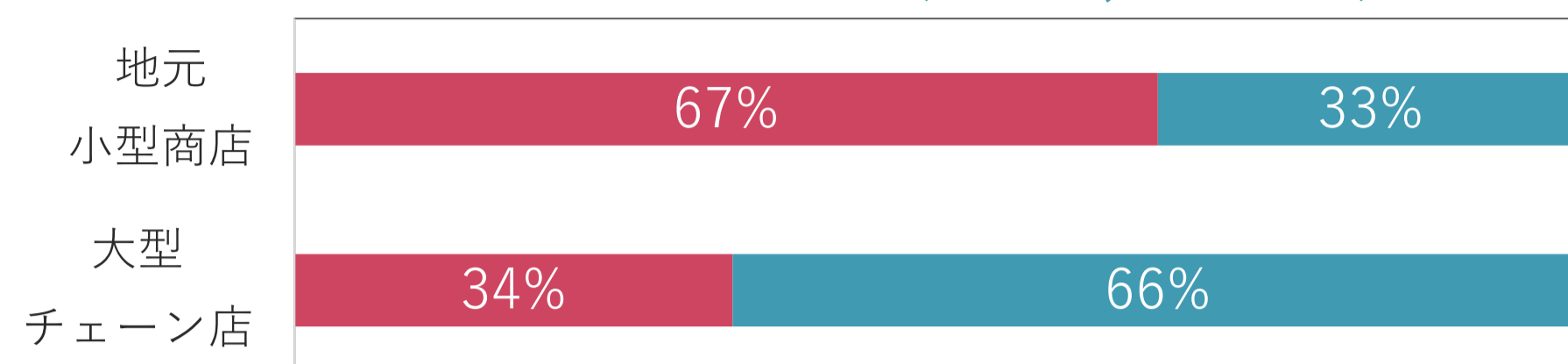
- ✓ 民泊などのより安価な施設も

### 目的

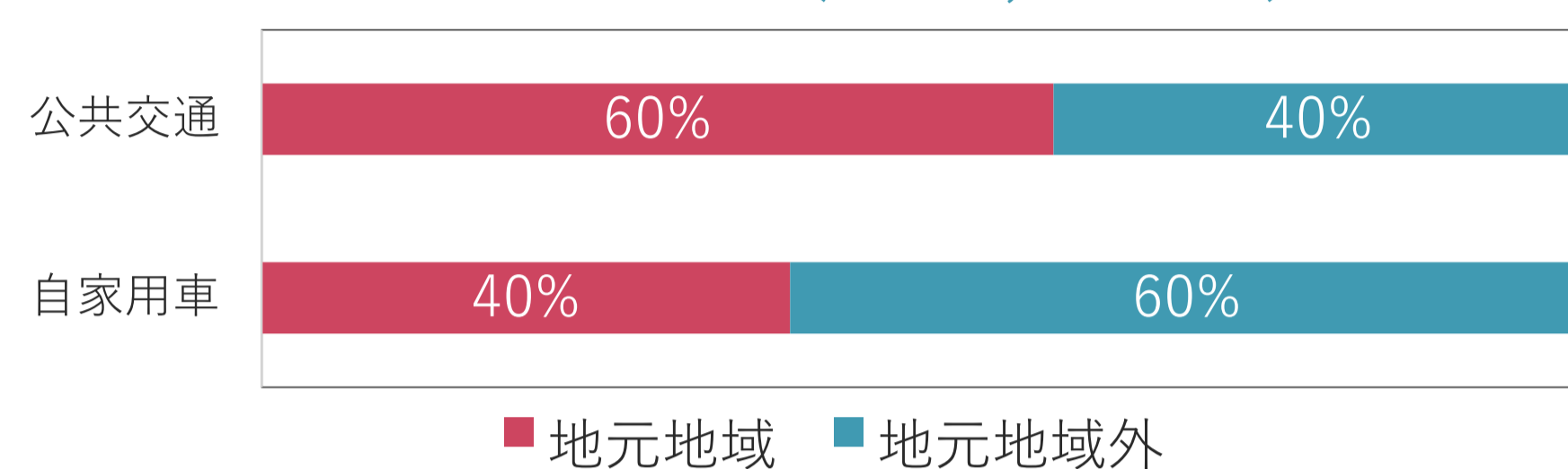
- ✓ 資金循環的な側面から地域経済への影響を分析

### 既往研究

- ✓ 買い物行動の場合 (田中, 2018)



- ✓ 交通手段の場合 (中島, 2020)



### 帰着率とは...

利用者の支払額のうち、事業者からの支出を経て最終的にその地域にお金が行き着く割合  
 →地域帰着率が大きいほど地域経済に貢献

### 研究方針

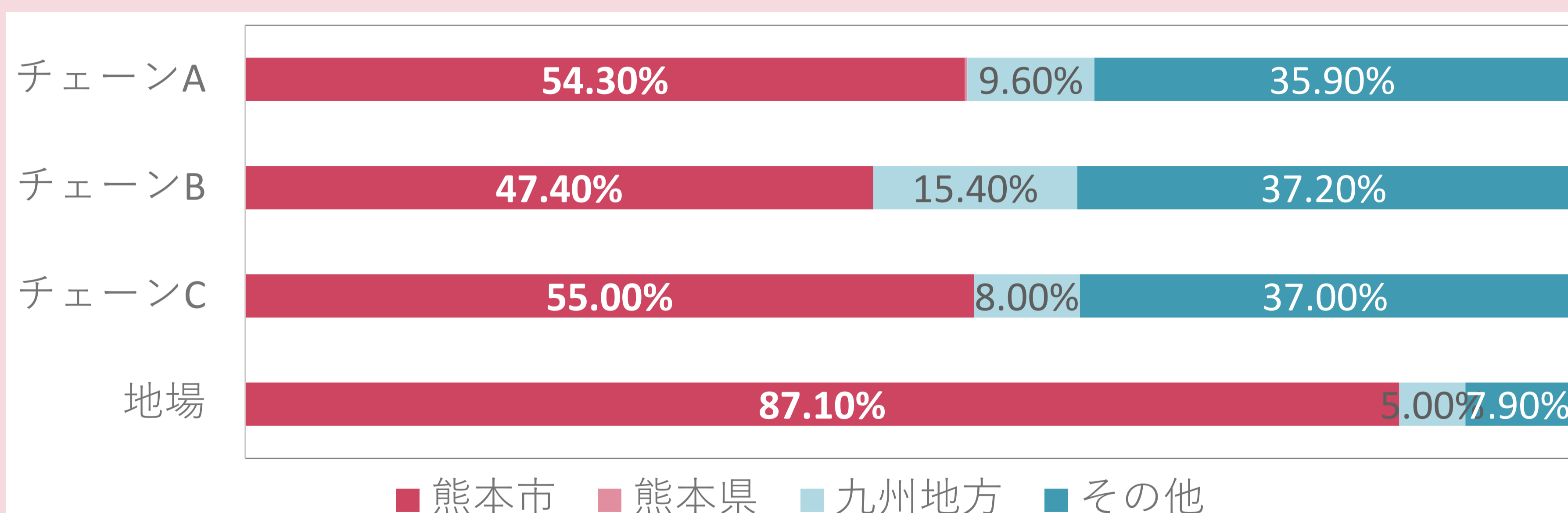
- ✓ チェーンホテルの本社でない地域
- ✓ 有価証券報告書に基づいて分析
- ✓ 売上原価の内訳の詳細や取引先情報が公表されているホテル
- ✓ 上記を考慮し対象は熊本市

### 余談

- 東北地方のホテル経営者インタビュー
- ✓ 地元のいい食材を提供し域内循環
  - ✓ 被災時に施設を開放し避難者を受け入れ
  - ✓ チェーンは中心地から外れた安い土地にホテルを急造し復興需要を支えたが...
  - ✓ コロナ禍でGoToもあったが、家族経営の宿では対応が困難 etc

## 結果

### 各地域への帰着率



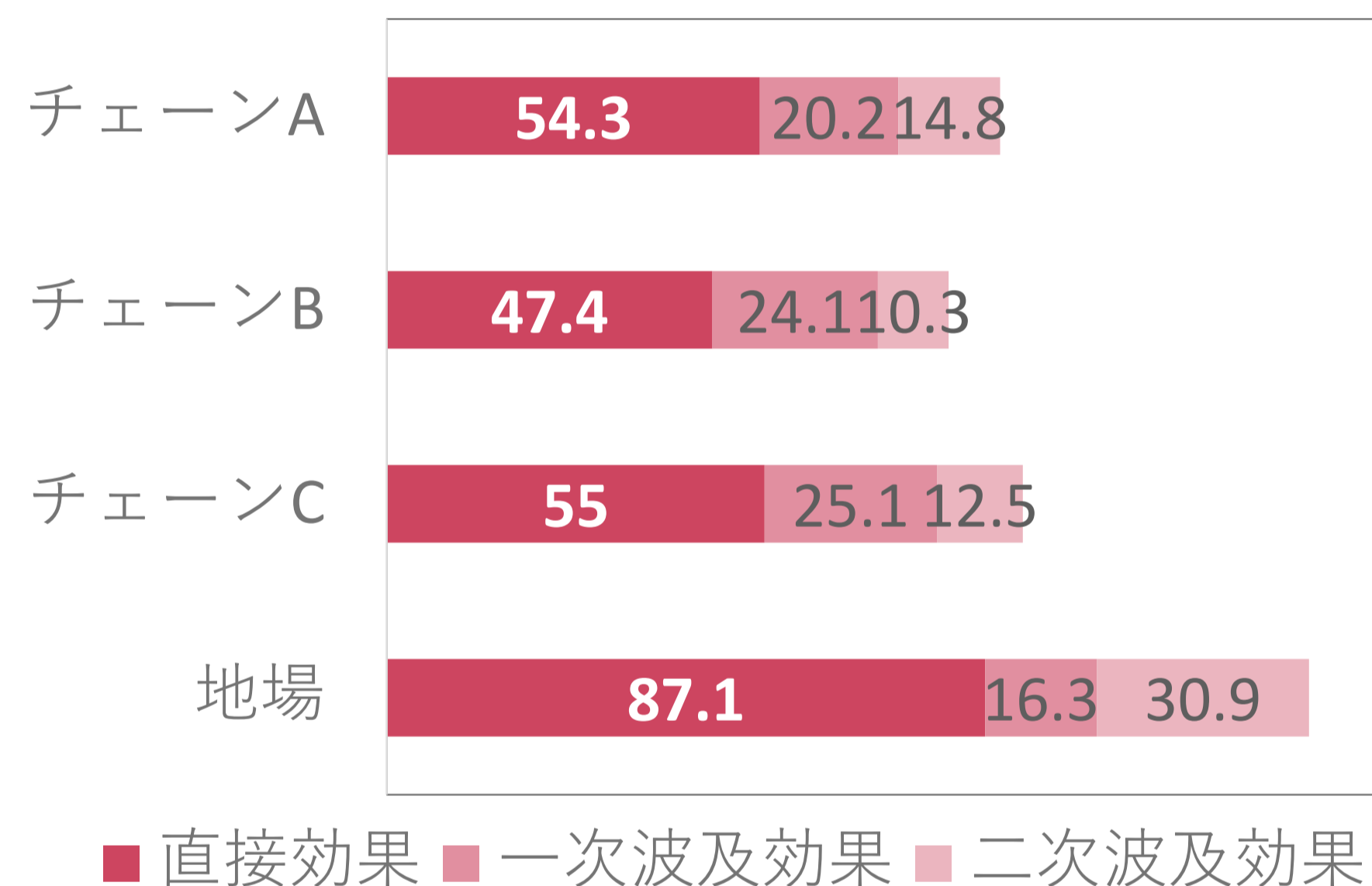
### 地場ホテルはチェーンホテルよりも約1.5倍地元帰着率が高い

- ✓ チェーンホテルでは、地代や人件費で一定程度、ホテル所在地に帰着
- ✓ 地場ホテルでは、そのほとんどがホテル所在地に帰着

## 考察

### 産業連関分析

1億円の売上の波及額(百万円)



### 課題

- ✓ 他地域での分析、より精緻な分析
- ✓ 動機付け情報としての有効性の確認

## 分析手法

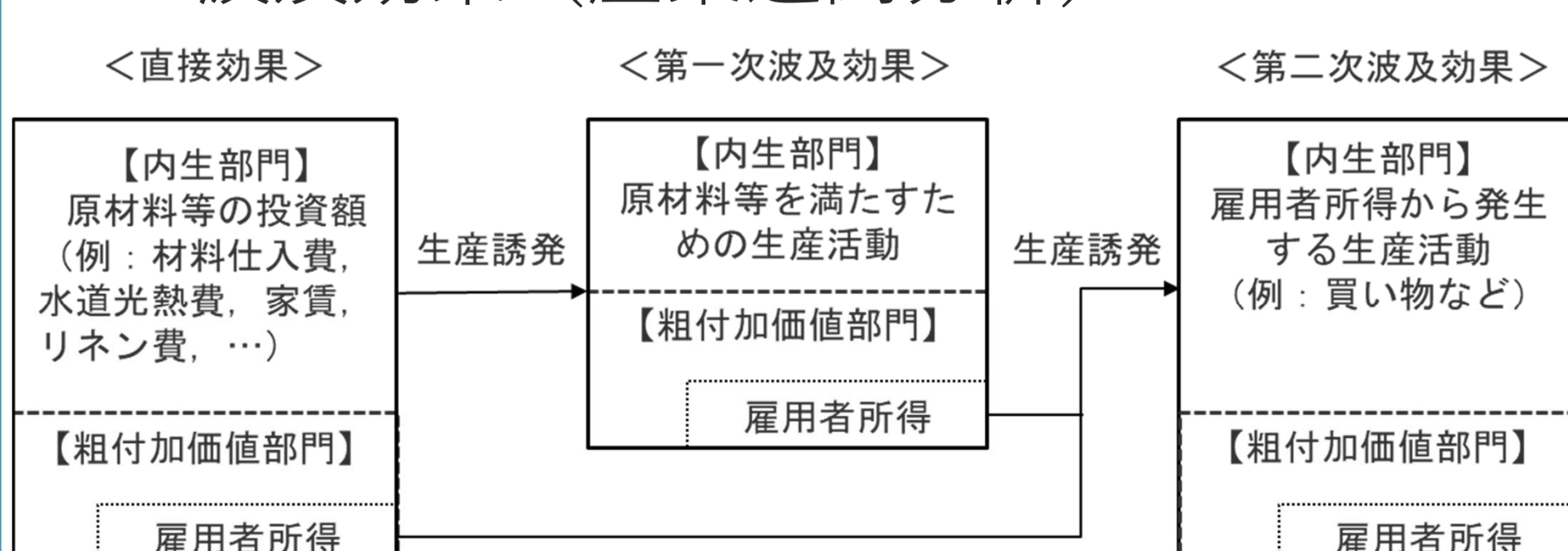
### 算出方法

- ✓ 帰着率

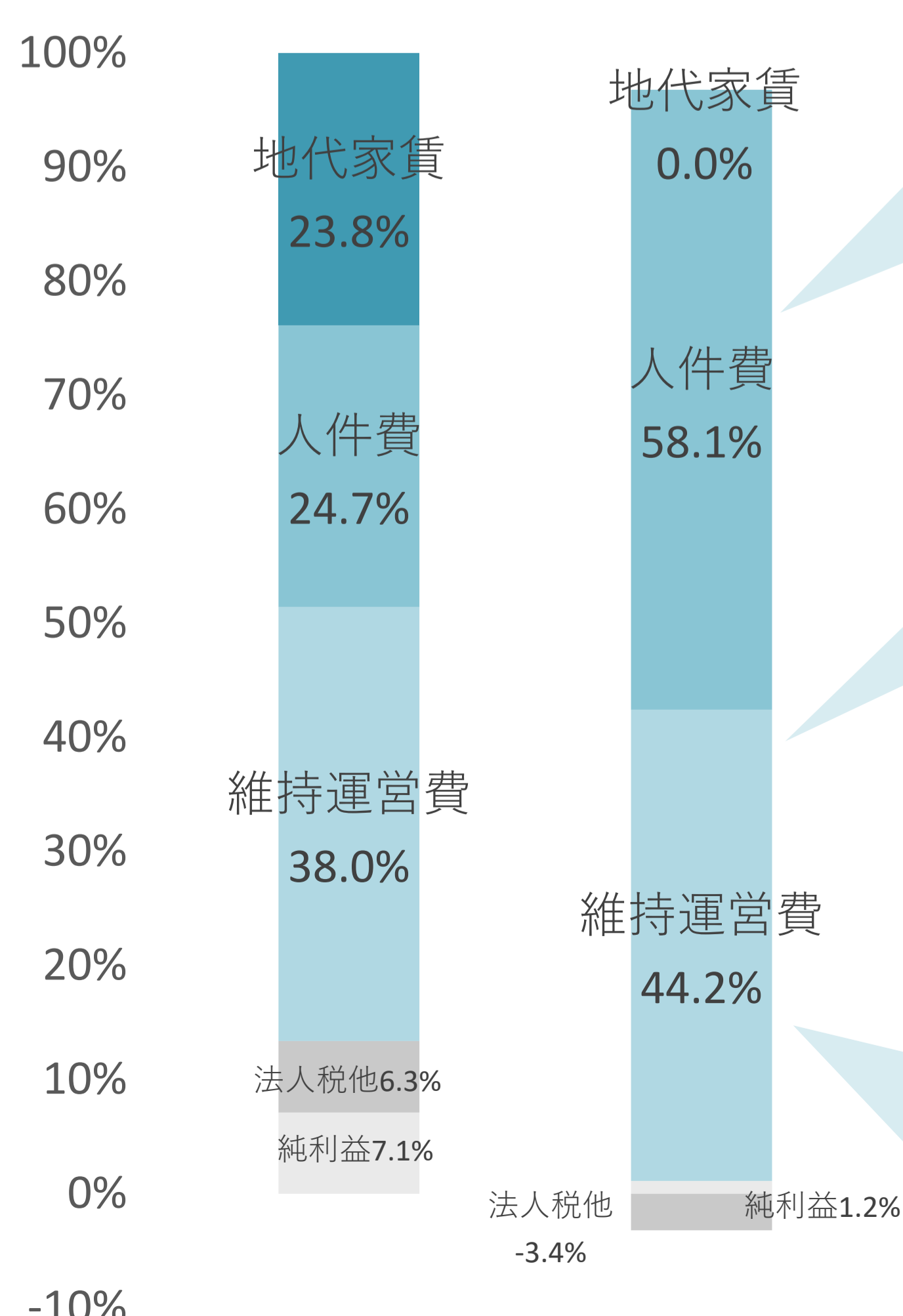
$$\text{帰着率} = \frac{\text{支出}i\text{の帰着額}}{\text{支出}i\text{の支出額}} = \text{支出}i\text{の支出額} \times \text{支出}i\text{の帰着率}$$

$$\text{各ホテルの帰着率} = \frac{\sum(\text{支出}i\text{の帰着額})}{\text{支出総額}}$$

- ✓ 波及効果 (産業連関分析)



### チェーンA 地場



帰着先：大家，従業員の居住地  
 ・大家は市内に居住  
 ・従業員は、基本的に現地で雇用 (役員等は除く)  
 チェーン⇒市内：96.5%，地場⇒市内：94.3%  
 (残りは本社・館外施設の所在地へ帰着)

帰着先：維持修繕を委託している業者の所在地  
 ・チェーン：グループ会社が建設・設備修繕を担う  
 ・地場：市内の業者に大半を外注していると仮定  
 チェーン⇒東京都：100%，地場⇒市内：94.3%

帰着先：旅行・カード会社の本社所在地  
 ・各業者に対して計上している売掛金額に応じて各地域の帰着率を設定  
 チェーン⇒東京都：100%  
 地場⇒市内：50.8%，東京都：49.2%  
 (市内に本社のある地方銀行への帰着率が高い)